

まちづくりオープンミーティング 意見・回答概要

日 時：令和 8 年 4 月 25 日（土） 13：30～15：00

会 場：SHOWA グループ市民会館 8 人

視聴者数：Instagram 214 人（最大同時接続数 17 人）

YouTube 627 人（最大同時接続数 85 人）

会場

No.	種別	内容
1	意見	自宅近くに建設予定の公共施設により日当たりが悪くなるのではないかと。特に建物が目の前に建つことで精神的負担がある。
	回答	建物は平屋で最大 40 人規模の学習施設であり、日当たりや圧迫感の懸念については、担当課と調整しつつ設計・配置に配慮している。ご理解いただけるよう、引き続き担当課を含め、調整していきたい。
2	意見	高校卒業後の転出が多い。地域企業や教育環境を活かして加古川に留まる工夫をしてほしい。
	回答	Decidim を使った意見交換など、行政が高校生と連携する機会も増えている。中高生に地域の企業をもっと知ってもらえるような取組みを県レベルで進めていきたい。また、住みながら働きたいと思っていただけるような加古川ならではの魅力づくりを進め、その広報もしっかりやっていきたい。
3	意見	人間ドック助成制度で後期高齢者が対象外となっている。高齢者のメリットを感じない。
	回答	加古川市後期高齢者医療人間ドック助成事業は、令和 5 年度をもって最終実施とし、令和 6 年度に廃止となったが、市が実施している無料の健康診査により、希望するほぼすべての高齢者が受診できる体制が整っている。今後は、いきいき百歳体操などの集いの場をさらに増やしていくなど、高齢者の皆さんがいきいきと過ごせるようにしていきたい。
4	意見	災害時にヘリコプターが到着するまでのつなぎとして、加古川市内の消防署にドローンを設置し、初期消火や状況確認に活用してはどうか。規制や安全面の課題はあるが、民間に頼らず市として運用できる体制を検討してほしい。
	回答	ドローンの導入については、以前から内部で検討しているが、進化が著しく、大きさや機能も多様になってきている。災害時や火災時に必ずしもドローンが最速の手段とは限らず、強風などの気象条件では活用が難しい場合もある。市として導入する場合はコストや職員の免許保持なども考慮する必要がある。ただ一方で、積極的な考え方として、広報宣伝にも日頃から活用できるのではないかとという考えもある。民間が導入しているものを活用する方法も含め、最適な方針を比較・検討していく。現時点では、今年度の予算で即座に購入・運用する予定はないが、今後の技術進化や役割、機能を見ながら、効果的な活用について検討していきたい。

ライブ配信

No.	種別	内容
1	意見	市内の交差点で名称が消えている場所が多く、看板の不備により市内外から訪れる方が迷うことがある。直す予定や対応について教えてほしい。
	回答	具体的な場所や状況の情報をいただければ、できる限り対応していきたい。市が管理していない県道などについても、必要に応じて県に連絡し改善を促していきたい。なお、市では、道路の損傷や設備の不具合を市民の方がLINEで直接道路保全課に知らせる方法を整えている。同様に消えた看板の情報なども情報提供していただければと考えている。

事前質問

No.	種別	内容
1	意見	駅周辺で歩きタバコをする方が多く、子どもや妊婦など多くの市民が利用する場所であることから、健康への影響を心配している。また、喫煙者への対策についてどのように考えているか。
	回答	JR加古川駅と東加古川駅には少し離れた場所に屋外喫煙所を設けており、そこで喫煙いただくよう整備している。また、啓発活動を通じて、歩きタバコの抑制やマナー向上に努めていく。ご意見の中で、特に気になる場所や行為があれば、詳細な情報を教えていただければ対応できるよう働きかけていきたい。
2	意見	災害時に必要な備蓄の内容や量を知りたい。
	回答	各避難所や市の施設では、屋根や窓ガラスの補修や避難所での生活用スペースの確保にも使えるブルーシート、保存食、飲料水、トイレ用便袋などを、被災者2日分相当量を目標として備蓄している。具体的には、保存食11万1千食、飲料水8,640本、トイレ用便袋35万7,020回分を整備し、被災者数を想定して必要量を計算している。また、平時からは市民の皆さんに最低でも3日分程度の自助備蓄をお願いしている。
3	意見	駅前の無料駐輪場では、管理が行き届かない場所でマナーの乱れが見られる。改善策として、有料駐輪場の設置や通学用・一般利用スペースの区分など、新たな管理方法を検討してほしい。
	回答	市内の駐輪場は、加古川駅と東加古川駅を中心に有料・無料を組み合わせ整備しており、駅から離れた場所では空きスペースを無料駐輪場として開放している。利用の多い箇所には、整理員をシルバー人材センターに依頼し、必要な対応を行っている。また、白線の引き直しなど視覚的な整備も進めており、昨年度は浜の宮駅前で実施した。通学用と一般用の区分は効果が見通せないことから、現時点では考えていない。また、無施錠自転車による盗難や防犯上の課題には、啓発や現地での声かけを強めるなど、啓発による対応を進めていきたい。
4	意見	学校での部活動の変化などもあり、公園でボール遊びをする子どもが増えている。その一方で、近隣への影響やトラブルも生じており、地域でのルール作りや市との連携、公園の

		あり方について一定の方向性を示してほしい。
	回答	公園の利用状況は場所ごとに事情が異なるため、一律のルールを設けることは難しい。加古川市が管理する公園では、危険なボール遊びは禁止としているが、公園の広さや周囲の状況によって安全性は変わるため、個々の公園ごとに対応する必要がある。具体的な場所や状況を情報提供していただければ、町内会とも連携しながら、適切な利用方法やルールを検討していく。また、スマイルメールなどを活用し、市民の声を受け止めながら、安全で快適な公園利用環境の確保に努めていきたい。
5	意見	不登校の子どもがフリースクールに通う際、授業料に加えて交通費の負担が大きい。交通費も含めた負担軽減をお願いしたい。
	回答	フリースクール利用者に対しては、兵庫県と市で協力し、月額1万円を上限に授業料などの補助を行っている。ただし、交通費については現時点では補助の対象外となっている。一方で、所属している学校長の証明があれば、鉄道やバス事業者が通学定期券を発行できる仕組みがあるため、利用されていない場合は検討いただきたい。
6	意見	井戸の登録制度を充実させる動きがある一方で、過去の計画では井戸関連施設を撤去する内容もあり、方針が統一されていないのではないかと。災害時に確認・活用できる井戸がきちんと把握され、運用されているのか、また市内での情報共有はどのようになっているのか。
	回答	災害時に活用可能な井戸については、「災害時協力井戸」として登録制度を設けている。井戸所有者から申し出があれば、水質検査を経て安全が確認された井戸を登録し、災害時には無償で市民が利用できる体制としている。一方で、施設の安全や維持管理上の理由により、井戸を撤去せざるを得ない場合もある。このため、撤去される井戸が存在することが、登録制度の存在と矛盾しているように見える場合があるが、個別の事情によるものである。
7	意見	かこバスの停留所まで距離があるなど、特に高齢者にとって利用しづらい場所がある。ライドシェアなど新たな仕組みや、中央市民病院へのアクセス向上のためのルート延長など、高齢者の移動手段をよりきめ細かく確保してほしい
	回答	市では、公共交通の利便性向上を重要な課題と捉え、かこバスや乗り合いデマンドタクシー、かこバスミニなどで地域の声を反映したルートを整備している。一方、ライドシェアは国の制度上制約があり、現時点では一般に自由に利用できる状態ではない。バスやタクシーとの重なりによる経営圧迫で路線の維持に支障が出ないよう配慮しながら、今後も地域の困っている場所の情報を受け、先進事例も参考にして、可能な方法を考えていきたい。
8	意見	3歳未満児の場合、上の子が小学生になると、多子軽減措置の兄弟としてカウントされず、保育料の軽減が受けられなくなり、経済的負担が大きい。兄弟カウントや制度の見直しについての考えを知りたい。
	回答	保育料の軽減については国の制度を基準としており、小学校就学前の範囲において、最年長の子どもから順に2人目は半額、3人目は無料という形で負担軽減を行っている。県内

		<p>には市単独で小学生以降も兄弟の割引を行う自治体もあるが、加古川市では現時点で実施していない。</p> <p>こういったご意見があることについては、国とも情報共有するとともに、今後の子育て支援を検討する際の参考としていきたい。</p>
9	意見	町内会の存在意義や今後のあり方、担い手不足の原因、そして今後どのように改善していくのか。
	回答	町内会や自治会は地域にとって重要な存在であり、災害時の避難支援や地域行事、ゴミステーションの管理など、多くの活動で暮らしを支えていただいている。一方で、町内会長や委員のなり手が減り、負担の偏りが生じていることから、必要に応じて依頼内容の見直しを行っていききたい。また、デジタル技術を活用した情報共有の効率化など、柔軟な対応を進め、町内会と市が連携して担い手不足や負担の偏りの改善に取り組んでいきたい。
10	意見	人口減少や財政制約が進む中で、加古川市が最優先で守るべき価値は何か、またその実現に向けて見直すことや削減も含め、市としての考えを知りたい。
	回答	市の施策や予算の配分にあたって、最も重視する価値は市民のウェルビーイングの向上である。限られた財源を有効に活用するため、これまで公開事業評価なども実施してきた。現在は、財政部局での査定を通じて、見直すべきものは見直し、継続すべきものは継続し、新しい取り組みも進めている。中長期的には、地域の居心地のよい居場所や、地域の誇りとなる魅力づくりを重視しており、かわまちづくりや日岡山公園の再整備、加古川駅南の再整備などを行っている。こうした施策も、市民アンケートや地域の声を踏まえて行っている。今後も、多様な市民の声を反映させながら、ウェルビーイングを高める取り組みを進めていきたい。